

**溝上泰子** 政治学者。転じて職を得た島根県での調査・研究を通じて、独自の底辺学を構築した。

みぞがみやすこ

日比谷公園・1903 = 広島県の山間部御調で、農業と藍染めの兼業農家の8女1男の八子に生まれる。長姉は19も年上。

**日露戦争終**・1905 = 2歳 :

両親の子育て三か条により、それぞれの子供は師範学校・看護学校・私立教員養成学校、その他技芸学校などで生活力をつけるよう教育される。

**明治天皇没**・1912 = 9歳 :

地元で、初等・中等教育を終えると、

本格政党内閣1918 = 15歳 : 親元を離れ、広島県三原女子師範学校に入学。

**原敬首相暗殺**1921 = 18歳 :

水平社結成・1922 = 19歳 : 卒業後、広島県尾道で小学校の訓導になるが、向学心強く、  
関東大震災・1923 = 20歳 : 女子向けの最高学府のひとつ奈良女子高等師範学校の家事科に入学し、

期待に反する教育レベルに失望しながらも、教育原理教授木下竹次に影響を受け、

金融恐慌・・1927 = 24歳 : 卒業後、木下の許で、奈良女子高等師範学校付属小学校の助教諭となる。  
女性差別の現実を思い知らされながら、「生活即学習・学習即生活」という信条をもとに、人類史の立場から日常生活を問い、

海軍軍縮条約1930 = 27歳 :

満州事変・・1931 = 28歳 : 「私の家事教育」を出版、

帝人疑獄事件1934 = 31歳 : 東京文理科大学教育学科に入学し直し、

**日中戦争始**・1937 = 34歳 : 卒業とともに、同大学教育学科研究科に進み、教育学の乙竹岩造ほかに学び、

第二次大戦始1939 = 36歳 :

**日米開戦**・・1941 = 38歳 : 修了。研究職を希望するも叶わず、府立第七・中野高女の講師をして生計たてるうち、  
・・・・・1942 = 39歳 : 社会研究教育協会が東京家庭学園(白梅学園の前身)を創設、その教授に採用され、所長に乙竹が迎えられた付属研究所の所員にもなる。ライト高弟遠藤新設計の若葉寮入り、その舎監となり、実践女子専門学校の教授も兼任するという忙しさのなか、研究続けるが、

年金+総武装 1944 = 41歳 : 戦局進展で東京家庭学園が勤労女子青年練成所に衣替え、職場を失い、直後に結婚するも、すぐに破局。

敗戦・・・1945 = 42歳 : 「国家的母性の構造」、

新憲法公布・1946 = 43歳 : 久松真一のいる京都大学文学部大学院で学び直すことにし、  
京都女子専門学校教授、

極東裁判決・1948 = 45歳 :

三大事件・1949 = 46歳 : 京都女子大学助教授もつとめるうち、活動が評価されて、

独立回復・・1951 = 48歳 : \*久松にも勧められて、島根大学教授に就任。

地域、とくに底辺における女性と家庭の問題に着目、島根で女性の地位向上に努める岡より子と出会い、山陰各地の女性グループからの講演依頼もあって、急速に見聞を深めるとともに、守旧派教授陣を批判して、大学改革運動も進め、

なべ底不況・1957 = 54歳 :

イスタラマ・1958 = 55歳 : \*「日本の底辺-山陰農村婦人の生活」が一世を風靡、底辺調査・研究・出版ブームを巻き起こす。

美智子妃・1959 = 56歳 : 続いて「受難島の人々-日本の縮図・沖縄」、

安保闘争・・1960 = 57歳 :

**東京リボルヴ** 1964 = 61歳 : ヨーロッパ各大学・高等学校の家政学・家庭科教育の実状を視察。

いざなぎ景気1966 = 63歳 :

美濃部都知事1967 = 64歳 : 「底辺十六年」。\*島根大学を定年退職、引き続き聖カタリナ女子短期大学・和光大学・本州大学・上田女子短期大学・島根大学などで非常勤講師をつとめながら、多くの講演・著書を残す。

霞ヶ関ビル・1968 = 65歳 : 「生活人間学」など数多くの著書がある。

**石油ショック**1973 = 70歳 :

ケラップール事件1975 = 72歳 :

田中角栄逮捕1976 = 73歳 : この年、岡より子らが「山陰の女」を創刊。

**貿易摩擦問題**1980 = 77歳 : 自伝「わたしの歴史」。

**中曽根内閣**・1982 = 79歳 :

・・・・・1984 = 81歳 :

バブル始・1986 = 83歳 : 以後3年かけて、「人類生活者-溝上泰子著作集」全15巻が刊行される。

ドイツ統一・1990 = 87歳 : 心不全で、没した。